

りの梅雨時期の濁水にもなっており、治水安全度の早期向上と清流復活が喫緊の課題です。このことから、今後進められる個別ダムの検証においても、地域実情に配慮をした対策が講じられるよう強く要望していきたいと考えています。

学校跡地の活用

問 廃校跡地利用計画について

答 平成23年3月31日をもって廃校となる柳沢、田処、出海及び喜多灘の4つの小学校の校区では、跡地

（廃校後の跡地利用が検討される）
（出海小学校）



学校行事へ地域住民も参加
（喜多灘小学校）



利用について具体的な要望が出ています。その内容は、いずれも新しい地域拠点施設として校舎を公民館的なコミュニケーション施設として、また、運動場及び屋内運動場は従来どおり社会体育施設として利用できるよう希望されています。教育委員会では、建物の耐震性のある校舎及び屋内運動場や運動場については、希望に沿えるよう検討していきたいと考えています。

まだ具体的な活用策のない校区については、他地区、地域での活用例の紹介などをを行い、地域の皆様とともに活用策を検討していきたいと考えています。

平成23年4月の小学校統合の準備と並行して、どの地域にも廃校校舎等の活用検討会を開設し地域の皆さんと相談しながら、コミュニケーション活動や地域再生に向けた拠点となるよう対処していきたいと考えています。

学校給食センター

問 建設事業と運営方法について

答 給食センター整備の目的については、完全給食が実施されていない長浜地域の小学校への完全給食の実施、老朽化が進んでいる大洲及び肱川学校給食センターの改築が必要となっていること。新築や改築時に学校給食衛生管理基準で義務づけられているドライ方式を導入し、また非汚染区域を区分して衛生管理の向上を図ることです。

現在、大洲学校給食センターでは調理及び配送等を民間委託しているが、質の高い公共サービスを維持しながら、経済効率性の高い施設整備、事業運営を行う

楽しく給食を食べる子どもたち
（田処小学校）



ため、全国でも取り組み事例がふえているPFI事業による新給食センター整備の取り組みを進めているところです。

今年度から取り組みを行うアドバイザリー業務においては、給食センター施設の建設や維持管理に、地元企業にどのように参画いただけるのか。児童・生徒に地元で生産された食材を使っておいしくて安全な給食をいかに提供し、地域や農林水産業に親しみを感じていただき、食の大切さを学んでもらうか。特別目的会社では可能な限り地元での雇用をいただくことについて、

重きを置いて検討していきたいと考えています。

今回の新しい給食センター整備事業を契機として、子供さんやお孫さんのために農地を耕し、安全・安心な野菜や果樹を生産していただき供給いただくことによる地域の活性化や生きがいづくり、生産組織や地域あるいは集落で連携を図っていただき、食材の供給体制を整えていただくことによる地域の連帯感の醸成、そして新しい給食センターでは衛生管理や調理のノウハウを持った運営会社により、可能な限り地域の食材を使っておいしくて安全・安心な学校給食を提供していただき、児童や生徒を健やかにはぐくみたいと考えています。



木陰で涼む？出満川のコイ（上須戒）